

ウクライナ危機 6カ月報告書

ウクライナで武力紛争が激化して半年。
今なお、**555万人以上の子どもたち**が人道支援を必要としています。
おとなにより引き起こされた争いによって、
子どもたちの命が危険にさらされています。



紛争の影響

6ヶ月にわたり、ウクライナの子どもたちとその家族は、壊滅的な被害を受け、避難を余儀なくされてきました。死傷した子どもは1,000人近くに達し、その多くが爆発性兵器による被害です。子どもたちは戦禍に巻き込まれ、学校や病院、その他生活に必要なインフラの破壊も続いています。約1,800万人が支援を必要としており、そのうち300万人が子どもです。

今回の紛争により、ウクライナの子どもたちのほぼ3人に2人が国内又は近隣諸国やその先の国々に避難しています。ウクライナからの難民は、ヨーロッパ全域で690万人にのぼります。ウクライナの東部と南部では、今なお激しい戦闘や空爆が続いています。東部の状況はますます悪化しており、子どもたちは支援を必要としています。

「おとなの無謀な決断により、子どもたちが、極度の危険にさらされています。こうした武力紛争ではいつも、子どもが犠牲になるのです」

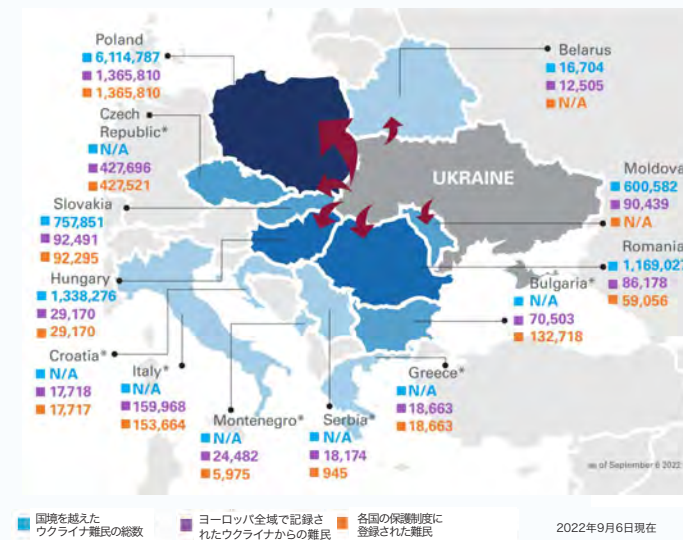
ユニセフ(国連児童基金)事務局長
キャサリン・ラッセル

被害の状況



皆さまのご寄付によって

ユニセフは、ウクライナと13の難民受入国において支援を続けています



この紛争により、ウクライナでは甚大な被害が発生しました。避難を余儀なくされた人々は、**1,390万人以上**にのぼります。少なくとも473の医療施設が攻撃され、生活に不可欠な水道のインフラも大きく損傷しました。安全な水を利用できない子どもたちは、水を媒介とする病気にかかるリスクが高まり、健康状態の悪化が懸念されます。また、286の学校が攻撃を受け、子どもたちの学習に支障をきたしています。最近の調査では、ウクライナの学校や教育施設の10分の1が避難所などとして使われており、教育の場として機能していません。

子どもたちは、家族や友人が死傷したり、家や学校、住み慣れた地域が破壊されたりするのを目の当たりにし、精神的にも大きな苦痛を受けています。紛争激化から半年が経過した今も、家族や友人との別れ、自宅からの避難、孤立、環境の大きな変化に伴い、子どもたちは恐怖、不安、悲しみを抱えています。女性や子どもは、自宅での避難の間や移動中、あるいは安全な場所を探し求める際、ジェンダーに基づく暴力を受けやすくなります。

紛争と避難が続く中で、ウクライナにも冬が近づいています。現在、60万世帯以上で停電が続き、20万世帯がガスを使えず、多くの都市で水道が利用できません。ユニセフは、まもなく厳しい冬を迎える人々の喫緊のニーズに対応していく必要があります。

ユニセフは、パートナーとともに1997年からウクライナでの支援を開始し、2014年からは東部でも支援活動を展開しています。そして紛争後は、子どもたちやその家族の緊急のニーズに応えるため支援拠点を10拠点に拡大しました。今回の危機への対応は、救命支援の実施、システムの強化、緊急人道支援と開発支援の統合に焦点を当てた多面的かつ状況に応じた支援が必要とされています。

そして、関係省庁との戦略的パートナーシップを活用し、92の政府機関や市民社会組織と協力して幅広い支援を届けています。13の難民受入国では各国政府と戦略的に連携し、ウクライナの子どもたちとその家族、そして受入コミュニティのために、システムを強化し、政策に影響を与え、社会サービスや保護などの支援を拡大しています。難民受入国における都市レベルの交流を支援するため、ユーロシティーズと地域協定を結び、これまで24のパートナーシップを構築してきました。

「ウクライナの子どもたちは誰もが、心に苦しみを抱えています。何の問題もないという子どもの割合をあげることはできません。すべての子どもが紛争の影響を受けており、その傷が癒えるまでには何年もかかるでしょう」
ムラト・サヒン（ユニセフ・ウクライナ事務所代表）

複雑な政治環境、現地へのアクセスの課題、安全保障上の懸念が続いている中であって、ユニセフは皆さまのご寄付によって、迅速に対応規模を拡大することができました。

ユニセフは、ウクライナの子どもたちとともにあります。この紛争が終わるまで、そしてそれ以降も支援を続けていきます。生活に不可欠な社会サービスの再開を支援し、国内外に避難した子どもたちが守られる環境を確保します。そして、一貫した人道支援への協力を求めます。子どもたちへの攻撃、そして子どもたちが必要とする学校、病院、水や食料などの生活インフラへの攻撃をやめるよう、引き続き呼びかけるとともに、学校を紛争の標的にしないこと、人口密集地での爆発性兵器の使用を中止することを求めます。そして何よりも、紛争の終結を訴え続けていきます。平和が戻り、維持されてはじめて、子どもたちは平穏な生活や子ども時代を取り戻し、心の傷から回復することができます。



支援の成果

紛争が激化して以来、ユニセフはウクライナにおける直接的な支援を大幅に拡大してきました。ウクライナ政府や自治体、国連機関、NGOや市民社会組織と協力して、保健、水と衛生、子どもの保護、教育、及び若者の社会参加の強化に取り組んできました。

難民受入国(ベラルーシ、ブルガリア、クロアチア、チェコ、ギリシャ、ハンガリー、イタリア、モルドバ、モンテネグロ、ポーランド、ルーマニア、セルビア、スロバキア)においても、ユニセフは複数の覚書を締結し、国や地方自治体と数多くのパートナーシップを構築してきました。国、自治体、地域が、高まるニーズと人手不足に苦しむ中で、保健、水と衛生、教育、保護の分野で支援を提供するなど、パートナーとしての信頼を得ています。さらに、各国のユニセフ協会(ユニセフ国内委員会)とのパートナーシップや世界スカウト機構などとの新たな多面的提携など、強力なネットワークも活用しています。

ユニセフはパートナーの協力のもと、ウクライナの紛争被害地域に留まる約**400万人**の命を守る保健・医療物資を提供し、インフラが損傷・破壊された地域に住む約**350万人**が安全な水を利用でき

るように支援しました。また、**76万人以上の子どもたち**に基礎教育を提供し、**170万人**以上の子どもたちと保護者にメンタルヘルスや心理社会的支援を行いました。難民受入国では、**32万人の子どもたち**が教育を受け、**540万人**が自分たちの権利や命を守るために不可欠な支援の情報などを得ることができました。また、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)と設置した40の「ブルドット」と呼ばれる支援拠点で少なくとも**23万4,000人の子どもたちと保護者**に包括的な支援を提供しました。

皆さまのご寄付により、ユニセフは、脆弱な立場にある子どもたちが最も必要とするときに、必要な支援を届けることができます。しかし、私たちの支援はそれだけにとどまりません。



プログラム別に見るウクライナと難民受入国におけるユニセフの支援

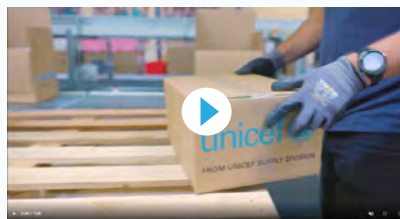
成果一覧

分野		2022年の目標	2022年の成果	目標達成率
保健	ユニセフが支援する施設で、プライマリ・ヘルスケアのサービスを利用することができた子どもと女性の数	3,500,000	4,136,898	118%
教育	就学前教育を含む、基礎教育を受けることができた子どもの数	1,273,400	1,081,214	85%
	教材、乳幼児期の子どもの発達のための用品、レクリエーション用品又は学習教材を受け取った子どもの数	464,700	352,193	76%
水と衛生	飲料や生活に使える安全な水の十分な量を利用することができた人の数	3,700,000	3,554,747	96%
子どもの保護	メンタルヘルスや心理社会的支援を受けることができた子どもと保護者の数	2,177,710	1,870,580	86%
	ジェンダーに基づく暴力のリスク軽減や予防、又は被害への支援を利用することができた女性と子どもの数	956,600	237,133	25%
社会的保護	ユニセフによる人道支援の一環としての、多目的な現金給付を受けた世帯の数	311,150	170,456	55%
複数分野にわたる支援	支援情報を受け取った人の数	17,961,280	14,855,560	83%
	懸念や疑問を寄せた人の数	756,225	298,389	39%



ユニセフはこれまで、5,590万米ドルの救命物資を受け取り、8,870万米ドルにのぼる物資を発注しました。合計5,860万米ドル相当の物資の大部分は、現地で支援を実施するパートナーやウクライナ国内に発送されました。

	物資 (2022年8月29日現在)	数	量 (トン)	価額 (米ドル)
 子どもの保護	思春期の若者のための用品、乳幼児期の子どもの発達のための用品、マスク、レクリエーション用品など	2,577	124,937	2,853,612
 教育	思春期の若者のための用品、乳幼児期の子どもの発達のための用品、マスク、学用品など	2,946	108,236	6,183,264
 保健と栄養	応急処置キット、医療・手術用具、医療用品、非常食など	16,173	1,360,923	23,739,605
 水と衛生	女性や女の子の生理用品などの尊厳キット、衛生用品、浄水錠など	77,387	1,267,020	17,445,336
 支援員へのサポート	ユニセフのロゴTシャツ、防弾チョッキ、腕章、バナーなど	293	8,169	1,099,223



「多くの方々からのあたたかいご支援により、ウクライナ各地の家族に支援物資が届けられています」

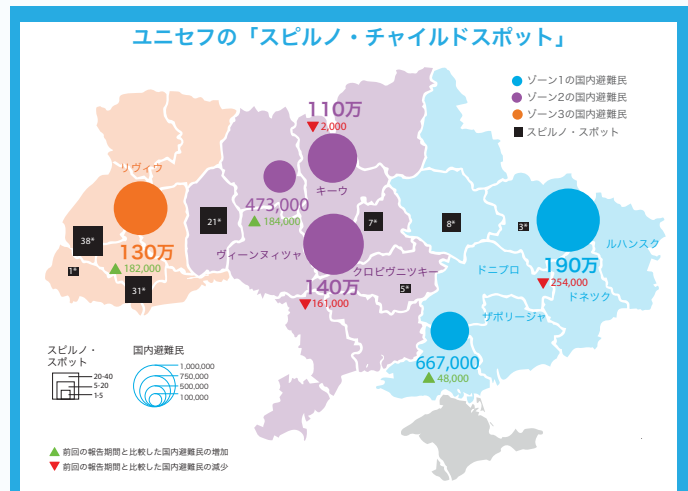
<https://unicef.jp/3rhm7oK>
(英語)

ウクライナの子どもたちのために

ユニセフは、ウクライナを3つのゾーンで考え、それぞれの状況に応じた支援を展開しています。

東部（ゾーン1）では、激しい軍事衝突が続き現地へのアクセスにも制限があります。そのため、緊急対応チームと、複数機関共同での人道援助車両部隊が入り、数百万人の子どもたちとその家族を支援しています。ユニセフは、避難している人々に必要な物資を届けるべく備えており、現在は、**250万人以上の国内避難民**のために、2,800万米ドル相当の物資の50%（1万5,000トン以上）をあらかじめ配置しています。また、被害の大きい最前線に近い13の地方自治体とパートナーシップを構築し、支援活動を展開しています。ザポリージャ州にいる2,000人以上の脆弱な立場の家族とその子どもたちにも、保健、子どもの保護、水と衛生に関する物資を届けました。

中部と西部（ゾーン2と3）では、ほとんど制限なく現地に入ることができるため、国の既存システムを活用しながら、地方自治体（州や市町村）、14の市民社会組織と協力して支援を拡大しています。13の移動チームに所属するユニセフのスタッフは、ソーシャルワーカー、電話によるカウンセリングやサポートを行う個人や団体を支援しています。また、7つの地域では、障がいのある268人の子どもたちに対し専門的な支援を行ったほか、約3万8,000人に対し、発達の遅れや障がいのある子どもたちのための医療、教育、社会サービスに関する情報を提供しました。さらに、緊急時の子どもの保護について、社会サービスに携わる専門家への研修を行っています。3つのゾーン全体で、220の屋内外及び移動式の「スピルノ・チャイルドスポット」と呼ばれる支拠点があります。そのネットワークを通じて、ユニセフは、毎日平均100人の子どもと保護者に包括的な支援を提供しています。



スピルノ・チャイルドスポット

「スピルノ・チャイルドスポット」は、子どもにやさしい空間として、戦闘で大きな被害を受けた地域や主要都市、国内避難民の避難所などに設置しています。近隣諸国の「ブルドット」と同様、障がいのある子どもを含め、すべての人が利用できるよう設計されています。

「スピルノ（ウクライナ語で「共に」の意味）・チャイルドスポット」では、メンタルヘルスや心理社会的支援、学習の機会の提供、応急処置や保健サービスの紹介、現金給付支援の登録などさまざまな支援を行っています。2022年3月、ユニセフは社会政策省と共同で、屋内外に150カ所、移動式の70を設置しました。

398万7,013人

の子どもと女性が、プライマリ・ヘルスケアサービスを利用することができました

76万276人

の子どもたちが、基礎教育を受けることができました

13万3,124世帯

が、現金給付支援を受けました

171万1,128人

の子どもと保護者が、メンタルヘルスの支援を受けました

945万205人

が、自分たちの権利や支援に関する情報を受け取りました

保健と栄養



スームィの地域周産期センターで、携帯用新生児保温機に包まれる新生児のソフィアちゃん。特別な体温調節のみならず、母国の平和も必要としています。

2月24日以降、ユニセフとパートナーが供給した物資により、ウクライナの約**400万人**がプライマリ・ヘルスケアサービスを利用できるようになりました。また、保健・栄養面での支援として、産院や小児病院を含む911の医療施設に、重要な助産・産科・外科・医療・応急処置キット、診断・治療機器、新型コロナウイルス感染症の簡易抗原検査キットを提供しました。それから、医師、看護師、心理士の移動チームを**18州**に派遣しました。これにより、避難所やアクセスが困難な地域に暮らす被災した子どもたちや家族4万8,000人が医療サービスを受けることができました。

ユニセフはウクライナ保健省と緊密に協力し、予防接種サービスを継続し、ワクチンによる病気の予防に貢献しました。これまでに、11万回分の不活化ポリオワクチン、15万回分の小児用B型肝炎ワクチン、**100万のコロナウイルス迅速抗原検査キット**を調達しています。ユニセフのリーダーシップのもと、栄養面での支援も強化され、2万1,000人以上の子どもたちとその家族に栄養物資が供給されました。

皆さまのご寄付によって

390万人

の子どもと女性が、プライマリ・ヘルスケアサービスを利用することができました

911

の医療施設が支援を受けました

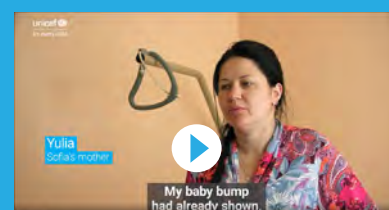
ユニセフは、年末までに**10の地域**で、避難所として利用されている**50の病院**を改修する予定です。

「女の子が生まれるのは、平和がおとずれる兆しだと言われています」

ユリアさんは妊娠中、爆撃から身を守るため、何週間も防空壕で過ごしました。空襲のサイレンの音が鳴り続き、不安や恐怖の大きな生活を送るなかで、早産となりました。未熟児は体温を維持できないため人工的な体温調節が必要です。ユニセフは、救助された子どもや防空壕に避難している子どもが特に必要な、携帯用新生児保温機を病院に提供しています。

ユリアさんは、「私は心から平和を望んでいます。地下室や防空壕に隠れる日々が早く終わり、娘には子ども時代を楽しんでほしいです」と話します。

携帯用新生児保温機によって、ソフィアちゃんもぐっすり眠れるようになりました。ソフィアちゃんの体温は、この特別な保温機によって維持されています。ユニセフは、医師からの要請を受けて、ドニブ口、スームィ、ポクロフスクなどウクライナの各都市の病院に、保温機を届けました。



「地下室に隠れて暮らすのは大変でした。お腹が大きくなっていたので、こうした状況での暮らしは辛かったです」
<https://unicef.jp/3BTxsAn>
(英語)

子どもの保護



©UNICEF/JUN0665093/Antoniina Latayko

マリアナさんと息子のマークくん（8歳）

ユニセフは、紛争の影響に苦しむ**171万1,128人以上の子どもとその保護者**に、メンタルヘルスや心理社会的支援を提供しました。計**6万6,480人の子どもとその家族**が、個々の状況に応じた専門的な支援を受けました。これまで**8万867人の女性と子ども**がジェンダーに基づく暴力の予防、リスク軽減、被害への支援を受けています。ウクライナの西部、中部、東部では、複数分野の専門家からなる63の緊急対応移動チームが、**30万474人の子どもやおとな**に対し、包括的な心理社会的支援、医療、法律、社会サービスを提供しました。また、5万7,305人の子どもとおとなに、ジェンダーに基づく暴力、子どもに対する暴力の予防と軽減に関する情報を提供し、3,512人の子どもと1万20人のおとなが利用しました。

また、子どもたちが紛争以前に受けていたさまざまなケアを継続できるよう、政府を支援してきました。その結果、病院などでフルタイムのケアを受けていた4万8,071人の子どもたちのうち4万3,000人が家族のもとへ戻ることができました。また、広報キャンペーンを主導し、性的搾取や虐待の防止、人道支援を安全に行うための能力強化を支援しました。このキャンペーンは、オンラインで18万1,314件の閲覧がありました。

皆さまのご寄付によって

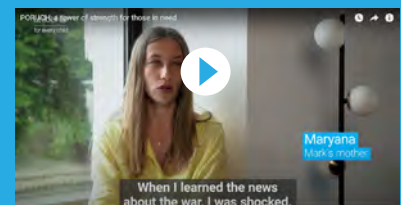
170万人

の子どもとその家族がメンタルヘルスや心理社会的支援を受けました

ポルーチ（PORUCH）：精神的な支援が必要な人をカブける

紛争が激化し、マリアナさんの生活は一夜にして変わりました。息子とふたりでキーウから逃れ、15時間、食事も休憩もとらず、ヨーロッパへ向かいました。突然、国を追われての生活に、マリアナさんは孤独と不安にさいなまれました。「頼れるものが全くありませんでした。私は、自信も気力も失っていました。でも同時に、自分と息子、そして親族に対して責任をもたなくてはと思いました」と話します。

ドイツでの生活に慣れないなか、仕事を探し、息子の世話をし、精神的にも疲弊してしまいました。悩んでいた矢先に知ったのが、「ポルーチ」プログラムでした。「ポルーチ」では、戦禍から逃れてきた子どもや若者とその親に、専門家が精神的なサポートを提供しています。マリアナさんは、このプログラムで専門家によるサポートを受け、困難やストレスに対処する方法を学びました。



「紛争がはじまったのを知ったとき、私はショックを受けました。子どもとの時間を大切にしなければならぬのに、自分も状況に対処できず、ひどい状態でした」
<https://unicef.jp/3RkKg8C>
(英語)

社会的保護



2歳の娘を抱いて微笑むユリア・スベレカさん。「子どもたちの未来が幸せであることを願うばかりです」と話します。「他のことはこれから考えますが、何よりもまず平和が必要です」

緊急時には、物資の供給よりも現金給付の方が費用対効果が高い場合があることがわかっています。ウクライナ政府の既存の社会保障制度を補完するため、ユニセフは多目的現金給付支援事業を拡大しました。3人以上の子どもがいる家庭や、障がいのある子どもを育てている家庭を対象に実施しています。

現金給付事業の開始以来、ユニセフは、13万3,124世帯の61万6,838人を支援するため、1億2,500万米ドル相当の現金を給付しました。対象者の62%は子どもで、約8%にあたる4万4,174人は障がいのある子どもでした。

「必要なときは、あらゆるドアを叩いて助けを求めるべきです」

ユリアさんと夫は、1歳の双子を含む3人の娘とともに、砲弾や銃撃から身を守りながら、1カ月を過ごしました。食料、薬、おむつを手に入れることが日に日に難しくなり、不安でいっぱいになりました。ユリアさんは、「どうにかして生き延びなければなりません」と話します。一家は危険を承知でキーウに向かいました。その数日後、住んでいた村は攻撃を受け、瓦礫と化しました。

ユリアさんの一家は、経済的に苦しい状況に陥りました。友人らの紹介でユニセフの現金給付支援プログラムを知り、ユリアさんはようやく少し安心したといいます。そして、登録から5週間経たないうちに現金を受け取り、何とか生活できる状況になりました。

「このプログラムは、経済的に困窮した家族を対象にしています。親や保護者こそ、この支援を最大限活用し、子どもにとっての最善を考え、提供できると信じています」

ムラト・サヒン
(ユニセフ・ウクライナ事務所 代表)

皆さまのご寄付によって

61万6,838人

がユニセフから現金給付支援を受けました

そのうち**62%**が子どもで、**8%**が障がいのある子どもたちでした

13万3,124世帯

が食料と衣服を含む

なニーズを満たすことができました



「私たちは、幼い子どもたちと一緒に、1カ月間銃撃から身を守りながら過ごしました」
<https://unicef.jp/3SDpphG>
(英語)

教育



2022年8月16日、ウクライナのハリコフで、爆撃を受けた学校にたずむマリーアさん(12歳)。マリーアさんは9月に7年生になるはずでした。しかし、校舎の大部分が破壊されてしまったため、授業はオンラインで再開される予定です。

ユニセフは、ウクライナ教育科学省と協力し、基礎教育を提供する「全ウクライナ・オンライン・教育プラットフォーム」を設立しました。30万4,000人以上の生徒と11万4,000人の教師を含む44万3,000人以上が、登録しています。これまで、**76万276人のウクライナの子どもたち**がこのプラットフォームを通じて、基礎教育を受けています。

28万326人の子どもたちが、乳幼児期の発達・レクリエーション用キットや、スクール・イン・ア・ボックス（箱の中の学校）などを受け取りました。また、「スピルノ・チャイルドスポット」では、研修を受けた5,700人の教師と4,000人のボランティアによって学習クラスが開かれ、10万4,013人の子どもたちが心理社会的支援を受け、社会と感情やライフスキルについて学びました。360人以上の教師が、メンタルヘルスや心理社会的支援の研修を受け、幼児期の社会的・感情的発達を促す「遊びを通じた学び」のアプローチについて学びました。さらに、「全国统一試験」（2022年の大学入試の枠組み）を受験できるよう、18万7,000人以上の子どもたちを支援しました。

皆さまのご寄付によって

76万276人

の子どもたちが、基礎教育を受けられるようになりました

28万326人

の子どもたちが、学用品を受け取りました

5,700人

の教師が、メンタルヘルスや心理社会的支援に関する研修を受けました

子どもたちが学校に戻れるように

「1カ月ほど前の7月に、学校が爆撃されました。なぜ、学校を爆撃したのでしょうか」とマリーアさんは話します。「コロナ禍も大変だったけれど、紛争のせいで、これまででいちばん辛い時期を過ごしています」。学校が好きだというマリーアさんは、「先生たちは私たちを尊重し、愛情深くたくさんのことを教えてくれます。学校には友達がいって、みんなで会っておしゃべりするのが楽しいし、勉強するのが好きです。廊下でばったり会った先生ともいろいろ話ができます」と言います。オンラインでの授業については、「急いで登校する必要がないのが嬉しいです。ベッドから起きてパソコンを開けば、すぐに勉強ができるから」と話していました。



「粉々になったガラスと金属片が、あたり一面に散らばっています。学校というより戦場のようです」

<https://unicef.jp/3fsbywz>
(英語)

難民受入国での支援

ウクライナから難民を受け入れている国々で、ユニセフは政府・地方自治体との連携して支援を展開しています。保健、水と衛生、子どもの保護、教育、社会と行動の変容、若者の社会参加といった分野において、各国政府、省庁、地方自治体、実施団体とのパートナーシップを迅速に構築しています。そして、各国政府を支援するため、政策について話し合ったり、協力したり、アドバイスを提供したりする関係を築いています。これにより国のシステムが強化され、難民の子どもたちの保護や、学びや遊びの機会の提供につながります。こうした政府やパートナーとの国を超えた協力を通じ、14万9,885人の子どもと女性がプライマリ・ヘルスケアのサービスを受け、7万3,363人が安全で適切な衛生施設を利用し、6カ国にいる5万人の子どもと5,000人の教師が70人の専門家から心理社会的応急処置と支援を受けられるようになりました。また、乳幼児の子どもへの発達に向けた無料のモバイルアプリ「Bebbo」の導入と翻訳も支援し、難民受入国すべてを含むヨーロッパ全域で、3万2,500人以上のウクライナ人の保護者が、ウクライナ語とロシア語に対応した同アプリを使えるようになりました。ブルガリア、イタリア、モルドバ、ポーランド、ルーマニア、チェコ、スロバキアにある40の「ブルドット」のネットワークを通じて、ユニセフが市民社会パートナーと行う取り組みは、既存の社会サービスを補完し、迅速な支援につながっています。

ユニセフは、13カ国でウクライナの子どもたちとその家族、そして難民を受け入れたコミュニティを支援しています。



14万
9,885人

の子どもと女性が、
プライマリ・ヘルスケア
サービスを利用できる
ようになりました



3万
7,332世帯

が、現金給付支援を
受け取りました



7万
3,363人

が、安全で適切な衛生
施設を利用できるよう
になりました



32万938人
以上の子どもたち

が、基礎教育を受けられるよ
うになりました



15万9,452人の子どもや保護者

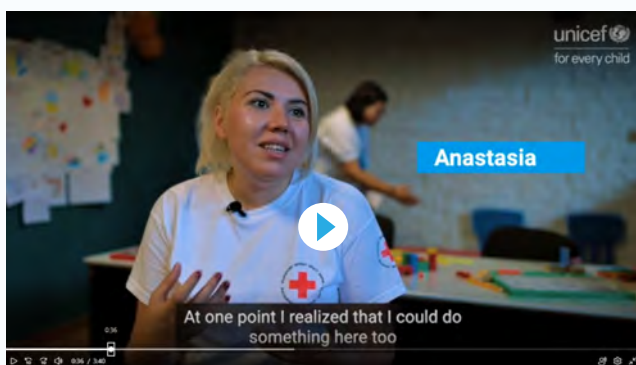
が、メンタルヘルスの支援を
受けられるようになりました



540万人

が、自分の権利や支援に
関する情報を受け取りました

子どもの保護と安全な空間の提供



ユニセフがUNHCRと運営する「ブルドット」では、子どもの身元確認と家族再統合などの子どもの保護と、メンタルヘルスや心理社会的支援、教育・保健・水と衛生・司法に携わる専門家の紹介など、さまざまな支援を提供してきました。

全ての「ブルドット」において、ユニセフは、同伴者のいない難民の子どもの支援、子どもに対する暴力や人身取引への対応、一時保護を受けた難民の権利と義務の擁護といった問題に取り組んでいます。ポーランドのルブリン市では、市と協力し、1万5,000人の子どもと親にメンタルヘルスや心理社会的支援を提供し、スプルニェの「スピルノ・チャイルドスポット」では、100人を超える社会サービス専門家への研修を行いました。スロバキアでは、UNHCRとともに4つの「ブルドット」を設立し、3万2,000人を超える子どもとその保護者にメンタルヘルスや心理社会的支援を、また7,000人を超える子どもに複数分野にわたる支援を提供しました。ブルガリアでは、2万4,540人の子どもとおとなが、子どもの保護に関連する支援を受けました。そのうち7,362人の子どもと1万7,178人の保護者には、メンタルヘルスや心理社会的支援、ジェンダーに基づく暴力の軽減、予防と支援に関する情報が提供されました。

ベラルーシでは、20人以上の心理士、社会サービスに携わる研究者や専門家が、ユニセフの支援を受けて、保健、社会福祉、司法における専門的支援について理解を深め、スキルを修得しました。地元コミュニティの心理士も参加し、難民の子ども60人と保護者30人に心理社会的支援を提供しました。

モルドバでは、ユニセフとパートナーは、3万1,230人の難民と受け入れ先コミュニティに対し、2つの「ブルドット」で安全な水と衛生に関する支援を提供しました。セルビアでは、難民と移民の家族に、9万1,500枚の赤ちゃん用おむつを含む衛生用品を配布しました。

「ブルガリアなど他国に避難した子どもたちが、孤独を感じず、自分らしく表現できる居場所を見つけることが非常に重要です」

<https://unicef.jp/3CkWdXD>
(英語)

皆さまのご寄付によって

9万1,500枚

の赤ちゃん用おむつをモルドバの難民・移民の家族に提供しました

40

の「ブルドット」が少なくとも

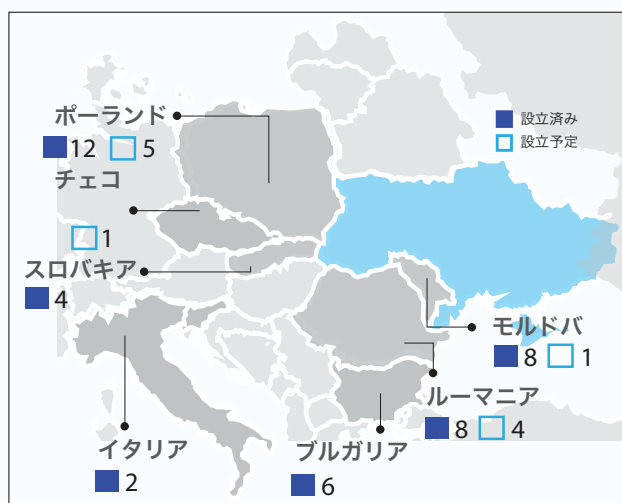
23万4,000人

の子どもと保護者に包括的な社会サービスを提供しました

5万人の子どもと

5,000人の教師が

心理社会的応急処置と支援を受けました



ブルドット

設立済み **40** 設立予定 **11**



ポーランドのジェシュフ市の倉庫に保管されている、ユニセフの支援物資の箱を運ぶスタッフ(2022年6月2日)。新型コロナウイルスの検査キットや応急処置キットなどの物資を供給しています。5月には不活化ポリオワクチン(IPV)5万本が届けられました。A型肝炎ワクチンもまもなく届きます。

ユニセフは、保健省や難民受入国におけるその他のパートナーとともに、より多くの人々が包括的なプライマリ・ヘルスケアサービスを利用できるようになりました。これにより、**スロバキア**では、3万5,800人の子どもと女性がプライマリ・ヘルスケアサービスを通じ、乳幼児の食事に関するカウンセリングを受けられるようになりました。また、**ルーマニア**では**3万8,000人**の保護者が、**チェコ**では6万人の難民が、ルーマニアの6都市では2,000人の難民が、スロバキアでは396人の子どもたちが保健サービスを利用できるようになりました。

社会的保護

モルドバでは、UNHCRと共同での現金給付支援を行っており、支援を通じて約2万6,000世帯が、一人当たり毎月120米ドルを受け取りました。同支援では現在、4回目の資金提供を行っています。これまでに6万7,279人に総額2,320万7,040米ドルを給付し、2023年末までに4,500万米ドルを支援する予定です。

スロバキアでは、UNHCR及びIFRC（国際赤十字・赤新月社連盟）とともに、2022年6月から毎月、ウクライナ難民の家族に現金給付支援を行っています。これまでに、2万2,568人に相当する1万445世帯以上に、現金を給付してきました。家族構成に応じて、各世帯80ユーロから380ユーロを受け取ることができます。さらに、IOM（国際移住機関）と協力して、障がいのある子どもたちや、常時介護などの特別な支援が必要な子どもたちの家族や介護者に、**毎月508米ドル**相当の支援を追加的に実施しています。これまで147人の介護者が、「介護者助成金現金給付支援プログラム」に登録されました。広報担当者などとも協力して、本プログラムの認知度を高め、毎月約80人の新規申請者の資格審査を行っています。

ユニセフとUNHCRの「ブルドット」は、**ポーランド**で約**10万人**に応急処置キットやその他の必需品を提供しました。また、**モルドバ**では、**26の居住施設**と300の脆弱な家庭のために衛生用品を調達しました。さらに、かかりつけ医の半数を対象として、難民の子どもたちへの定期的な予防接種に関する研修を行いました。その結果、1万人の難民の子どもと女性が保健サービスを利用できるようになりました。

ポーランドでは、子どもの予防接種用に5万本の使い捨て注射器を調達し、現在実施中の予防接種キャンペーンを支援するため、数十万回分のワクチンを調達しています。

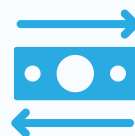
14万9,885人の子どもと女性が、プライマリ・ヘルスケアサービスを利用できるようになりました

15万9,452人の子どもと保護者が、メンタルヘルスや心理社会的支援を受けられるようになりました

2,640人の医療専門家が、メンタルヘルスや心理社会的支援、緊急ケア、乳幼児の食事に関する研修を受けました

ブルガリアでは、同国政府の社会保障政策との調整のために、現金給付作業部会を設立し、一時保護を受けているウクライナ難民**3万5,960人**に191米ドルの単発緊急現金給付支援を行いました。

ポーランドでは、国の社会保障制度に難民の子どもたちを組み込むにあたって、国及び地方当局と事前に話し合い、主要なニーズを特定し、ニーズと既存制度とのギャップを明確にしました。ユニセフと家族・社会政策省は、総額2,000万米ドルを用いて約**18万人の難民の子どもたち**を支援することに合意しました。さらに、地方自治体と協定を結ぶ際には、社会的保護（現金と現物給付）の要素も盛り込みました。一時保護下にある子ども、障がいのある子ども、3人以上の子どもを育てる保護者など、脆弱な立場の家族や子どもがいる計**1万世帯**が、この支援の対象となっています。



61万6,838人
が現金給付支援を受けました



©UNICEF/JUN0379516/Tremeau

2022年8月1日、ユニセフ親善大使のプリヤンカ・チョブラ・ジョナスさんが、ユニセフがポーランドのワルシャワ布と共同で設立した教育支援の拠点で、子どもたちと交流しました。ここでは難民の子どもたちが集い、勉強したり、オンラインで授業を受けたり、宿題をしたり、ポーランド語のクラスに参加したり、メンタルヘルスや心理社会的支援を受けたり、仲間と交流したりしています。現在、1,170人の子どもたちがこの安全な空間を利用しています。

ウクライナから避難してきた人々を受け入れている近隣諸国では、ユニセフは政府や自治体を支援し、保育園や幼稚園を含め、国の教育機関への難民の子どもたちの登録に取り組んでいます。これにより、**32万938人**以上の子どもが、就学前教育を含め、学校における公式の基礎教育、又は地下鉄の駅などに臨時に設置された非公式の基礎教育を受けられるようになりました。これまで、**7万1,867人**の子どもたちに、教材を提供しています。また、すべての人にとって安全かつ居心地の良い学習環境を実現するため、教師や学習支援員を対象とした、メンタルヘルスや心理社会的支援、遊びを通じた学習指導、多文化対応に関する研修を支援しました。

2022年8月26日現在、ユニセフは国や地域の教育機関と15の覚書を締結しています。

地方自治体やコミュニティにおけるこうしたパートナーシップは、技術支援を提供し、国の既存システムを強化するのに役立っています。また、言語と文化の問題だけでなく、教育の統合と適応、早期学習と発達、メンタルヘルス、思春期の子どもの社会参加と子どもの保護、（適切な場合には）デジタル学習の統合といった分野での専門性を深めることに貢献しています。こうしたパートナーシップの結果、18万2,000人のウクライナ難民の子どもたちがポーランドの教育機関に入学し、3万人の子どもたちが幼児教育を受けられるようになりました。モルドバにおいても、難民を国の教育制度に組み込むため、教育・研究省を支援し、2万6,699人の難民の子どもたちに非公式の基礎教育や就学前教育を提供しました。同様にスロバキアでは、ユニセフの政府とのパートナーシップにより、21万1,700人を超える子どもたちが、就学前教育を含む基礎教育を受けられるようになりました。

ポーランド、モルドバ、ルーマニア、ブルガリア、スロバキアでは、既存の保育園や幼稚園の収容力が限られています。そのため、自治体や市民社会組織と協力し、少なくとも600人の子どもと532人の保護者が遊びや学習に利用できる60の拠点を設置しました。8月にはさらに35の拠点の設置を予定しています。こうした拠点の目的は、1) 幼い子どもたちに遊び、就学前学習、子ども同士の交流、及び発達の機会を与えること、2) 母親が仕事を探している間に毎日幼い子どもを預けることができる場を提供すること、そして3) 母親たちに実用的なアドバイスや情報を提供する子育て支援センターとなることです。

皆さまのご寄付によって

32万938人

の子どもたちが、基礎教育を受けられるようになりました

7万1,867人

の子どもたちが、個別の学習教材を受け取りました

15 の覚書を、国や地域の

教育当局と締結しました

ウクライナと難民受入国の横断的な対応

若者の育成と社会参加

2022年7月、ユニセフは世界スカウト機構と協力し、1万7,000人以上のウクライナの人々を支援しました。そのうちの1万3,281人は、ポーランド、ハンガリー、モルドバ、ウクライナ、リトアニア、ラトビア、ルーマニア、チェコ、スロバキアに避難した子どもや若者でした。さらに世界スカウト機構は、子どもたちを対象とした90以上のサマーキャンプなどのイベントをこれらの国々で開催しました。ポーランドでは、ユニセフは政府、自治体、市民社会組織と協力して、子どもたちがポーランド語を身に付け、コミュニティで楽しく暮らせるように夏のイベントを開催し、約10万人の子どもたちが参加しました。また、5万1,000人以上の若者に無料で食事が提供されました。さらにユニセフは、エジンバラ国際賞財団と協力し、スロバキア、チェコ、及びルーマニアで、4万人の若者（14歳から24歳までのウクライナからの難民2万2,000人を含む）を対象とした多国間プロジェクトを試験的に実施しました。また、ユニセフがユースワーカーの移動チームを支援した結果、1万人の難民とモルドバの若者が支援を受けました。

ポーランドに避難した
10万人
の子どもが、コミュニティへの統合支援を受けました

社会と行動の変容と、被災者へのアカウンタビリティ

ウクライナでユニセフは、現金給付支援に関する国内ホットラインを運用しました。さらに、受益者が「スピルノ・チャイルドスポット」やユニセフのウェブサイトフィードバックを行えるような仕組みを用意しました。また、SNSを通じても人々の声を聞き、集約された意見は保健省や教育科学省などの情報提供や意思決定にも影響を与えています。例えば、学校の新年度が始まる際に、保護者がSNSでどのような投稿やコメントをしたかについてレポートが作成され配布されました。

マリウポリから逃れてきた法学生、難民への支援に携わる

法学を学ぶ若い学生のヴィオレッタさんは、マリウポリの惨状から逃れた自身の経験から、同じように故郷を追われた人々を助けています。ヴィオレッタさんは、起業をめざす若者たちにスキルを提供する、ユニセフの「アップシフト (UPSHIFT)」プログラムに参加した後、友人たちと法律クリニックを開設し、しばらくそこで働いていました。現在、ヴィオレッタさんは黄色と青のベストを着用し、市内の支援センターでボランティアを務め、国内避難民の法的な問題や問い合わせに対応しています。アップシフトは、ユニセフが民間企業、政府、市民社会と構築した世界・地域・国レベルのパートナーシップのもと、若者が中心となって企画・実施する共同プロジェクトです。



マリウポリ出身のヴィオレッタさん(21歳)は、ユニセフの支援を受けるボランティアで、法律が専門です。現在、ザポリージャにある国内避難民のための支援センターに所属し、マリウポリからの難民が法的な問題を解決できるよう支援しています。

難民受入国では、U-Report (ユー・レポート) のヨーロッパ版が、難民となった若者やその家族に対し、受入国における権利や支援に関する情報を引き続き提供しました。2022年6月1日の開始以来、U-Reportは大きく成長し、現在はポーランド、ウクライナ、ドイツ、チェコ、イタリア、イギリス、フランスに1万696人の利用者がいます。

540万人

が、自分たちの権利や支援に関する情報を受け取りました

紛争が続く中でも、ユニセフは現地にとどまり支援を継続します。 皆さまもどうか引き続き、ユニセフの活動にご協力ください。

年内に、ユニセフはウクライナの政府や市民社会と協力し、少なくとも670万人（うち子どもは280万人）に、包括的な人道支援を行う予定です。子どもたちの健康、教育、保護を支えるシステムの強化には特に重点を置きます。ユニセフは、激しい戦闘が続く地域に閉じ込められている子ども、国内で避難生活を送る子ども、難民として暮らす子どもなど、すべての子どもが社会サービスを公平に利用できるよう活動しています。緊急支援・復興支援は、施設にいる子どもや障がいのある子どもなど、最も脆弱な立場の子どもたちにも届いています。

皆さまのあたたかいご支援によって、ウクライナの子どもや家族に必要な支援を届けることができます。**しかしこれからは、冬の到来に向けて、さらなる支援が必要です。**戦闘の勢いが弱まることなく、記録的な厳冬が予想される中、子どもたちが命の危険にさらされています。家屋の損傷や破壊、電気や石油が利用できないことにより、家を温めたり、寝る場所を確保したりすることが難しくなると予想されます。気温が氷点下になる地域、冬の気候に関わるリスクが高い地域、特定分野の脆弱性が深刻な地域、そして社会サービスが行き届いていない地域といった優先順位の高い地域への対応に十分な物資や人手を確保するため、ユニセフは冬期計画を立案しています。**この先待ち受けている厳しい寒さに備えるため、時宜を得た柔軟な資金を必要としています。**

資金の必要性

各国のユニセフ協会（ユニセフ国内委員会）と現地事務所による継続的な募金活動により、企業、財団、慈善団体、個人を含む民間の寄付者の皆さまから迅速かつ柔軟にご協力をいただいています。すでに現地へ送金された民間からのご寄付総額は、**6億1,790万米ドル**にのぼります。この度の危機へのご支援は前例がないほど大きく、24カ国以上の719の企業、213の支援団体、119の財団、そして多くの個人からご寄付が寄せられています。

ユニセフは、皆さまのあたたかいご支援に心から感謝いたします。

そして、子どもたちのために、継続的なご支援をお願いいたします。

乗り越えることが難しい危機のように見えるかもしれませんが、今回私たちは、これまでで最も迅速に世界各地から支援をいただきました。これは、連帯感とパートナーシップのもとに団結すれば、大きなことが達成できるということをあらわしています。私たちがどのように人道危機に対応することができるのかは、ウクライナの危機下でのこれまでの支援によって示すことができました。しかし今後も、ウクライナの子どもたちのため、支援を継続する必要があります。

ウクライナ緊急募金への皆さまのご協力により、ユニセフは子どもたちの命を守るため、いつでもどこでも必要なときに、柔軟かつ迅速に支援を届けることができます。2022年9月には、各プログラムを通じたさらなる支援と冬に向けたニーズを考慮した「子どもたちのための人道支援活動 (Humanitarian Action for Children)」の改訂版を発表する予定です。

私たちはともに、子どもたちの命を救うことができます。